

## スーパーグローバル大学創成支援事業 令和6年度事後評価結果表

大 学 名	芝浦工業大学
整理番号	B14
構 想 名	価値共創型教育を特徴とする理工系人材育成モデルの構築と世界の発展への貢献

### ◇スーパーグローバル大学創成支援プログラム委員会における評価（公表用）

（総括評価）  <b>A</b>	十分な取組状況で事業目的が達成され、今後も持続的な発展が期待できる。
（コメント）	
<p>事業期間全体において、グローバルな実践型技術者の育成にフォーカスした理工系人材育成モデルの構築と世界水準の大学制度の実現のために、全学を挙げて各種取組みが行われたものとなっている。それに加え、産学官連携コンソーシアムの構築・運営を進めることで、教育・研究・社会貢献の三位一体での改革となり、“芝浦ブランドの人材育成モデル”が確立されたものとなっている。</p> <p>具体的には、授業のアクティブラーニング化やルーブリックを用いた評価などの先進的教育改革の実施、学長付託型ガバナンスの確立による人事システムの改革、産学官連携コンソーシアムであるGTI(Global Technology Initiative)の成果を基にしたグローバルPBLの実施などにより、本事業で掲げた目標達成のために多くの取組みが着実に実施されている。それらの成果として、協定校数の大幅な増加や、外国語による授業科目数の増加、教務システムの国際通用性の向上に繋がっている。さらには、2015年の設立当初は約120機関であった「GTIコンソーシアム」は、2024年には240を超える加盟機関による協力を得ており、その枠組みの中で実施されたグローバルPBLは、本事業の特徴的なプログラムとしての発展に繋がっていると同時に、コロナ禍でも実践形式によるオンライン化を進めたことでCOIL型教育へと進展させたことは優れたものである。それらの成果を、コンソーシアムを通じて他大学へ普及する活動を精力的に行ったことで、理工系単科大学のモデルとして国内外の大学へ展開されており、十分に事業目的が達成されたものと言える。</p> <p>一方で、当初の数値目標が極めて意欲的であった点や、コロナによるパンデミックの影響もあったと推察されるが、本事業の成果指標について当初設定した事業最終年度の目標は多くが達成できておらず、これらの課題認識とその対応が必要である。グローバル PBLの質・量の強化や、柔軟な学事暦の設定、海外サテライトオフィスを活用した現地リクルート強化等により、日本人の送り出しや外国人学生の受入れをより一層活性化させ、多文化共修環境の整備を行うことで貴学のさらなる国際化の推進が望まれる。</p> <p>最後に、スーパーグローバル大学創成支援事業による補助期間は終了したが、引き続き徹底した「大学改革」と「国際化」を断行し世界的に魅力的なトップレベルの教育研究を行い、我が国社会の国際化の牽引に寄与されることに期待する。</p>	